

事の始まり・ヒューストンに暮らす



日本でのとおるさんのお仕事ですが、ながらく慣れ親しんだ分野から、新しい技術領域に移ることとなりました。これにともなって、関連する米国企業とのコラボレーションを行うため、仕事仲間と上司・とおるさんを含め数名が駐在することになりました。とおるさんの担当は、いわゆる材料開発で、この部分は、とある大学との共同研究で進めています。そこを見ましよう、ということでヒューストンへの赴任が決まりました。上の写真はその大学構内の様子です。青い空・広い芝生・静かな木陰……と良いことづくめに見えますが、約十年前前に過ごしたカリフォルニアの大学とは訳が違うのです。まず蒸し暑い。夏は華氏 100 度・湿度 90%の気候です。ぱっと見、寝そべりたくなる芝生ですが、噛まれると猛烈に腫れる蟻ン子の襲来を覚悟せねばなりません。また、今回のとおるさんの身分は学生でも研究員でもないため、大学側と相談のうえ空き部屋を貸してもらうことになりましたが、とりあえず「てんぷら」の居候です。下記は、その仮オフィスの様子。



2012 年が明けて、2 月になって上記の仕事場へ一度出張したのち、3 月なかばに日本へ帰国し渡米ビザの準備に入りました。お嬢は大学受験で苦戦の最中でしたので、本格的に駐在になる件はしばらく伏せておりました。ようやく桜も咲き(お嬢の進学も決まり)、しばらくは見納めとなるであろう日本の美をとおるさん家で堪能しました。



実家の庭にも見事な花が咲き、写真に納めておきました。



USビザの申請手続きはおおむね順調に捗り、都内のアメリカ大使館でのインタビューも無事終了しましたが、通常より時間を要しました。春の異動・旅行シーズンと申請システムの変更とが重なったせいか、待てど暮らせどビザつきパスポートが戻ってきません。今日来なければもう一週間飛行機は延期だねえ、とオク様と呑気に話しておりましたところ、土曜の夕方になって郵便でパスポートが到着。明けて月曜日にスクランブル発進することになりました。これまたしばらく食べ納めじゃっ、ということで日本の食卓をしみじみと眺めました。



スクランブル発進する前に、身の回りのものを米国へ輸送せねばなりません。とおるさんの頭の中はオーディオの事ばかり。先に到着する航空便には、最近作った真空管式・高1AM ラジオと、USB オーディオ 1号機、衣服を詰め込みました。船便には、「とおるさん家」の物どもほぼ全員を乗せました。ジムテックウーハー、2インチドライバ、フラワーポット製なんちゃってホーン、SP-10、5670W のプリアンプと DAC、UHC-MOS パワーアンプ、6L6 パワーアンプ、ケーブル類、諸々です。自作品ゆえに、輸送途中で壊れないように工夫をしました。ウーハーのエンクロージャーには、クッションとともに2インチドライバを詰め込み、底板をネジ止め。各アンプ類にも底板を付けてエアキャップでぐるぐる巻きに。SP-10 はターンテーブルとアームを外し別々に梱包。ローターとステーターの間に詰め物をして、ぶつからないようにしたうえ、スピンドルの上からプラスチックの容器とエアキャップをかぶせて DC モーターを嚴重に保護しました。運び出し当日、日通の皆さんが来て、これら一次梱包済みの機器類をひとつひとつ段ボールに納め、周囲の隙間にはくしゃくしゃにまるめた紙を充填しました。これなら安心。スタッフ曰く、「紙だと資源とスペースが無駄だから、衣類を詰め込むと良いですよ」とのこと。持ってゆくつもりではなかった古着類もがまん詰め込んだところ、ふと気が付いたら日本にはほとんど着るものが残っていない状態になりました。まあいいや、と思ったのですが、後日、ビザ待ちの期間は、海外出張先のホテルと同じ状態で過ごす羽目になりました。ともあれ、とおるさん家のオーディオ機器たちは一足先にアメリカに旅立ったのであります。西海岸から陸路ヒューストンか、あるいは長駆パナマ運河を越えてニューヨーク港からテキサスへ陸送か、まずは無事の再会を期して、Good luck!!



さて、当の本人ですが、4月のとある日、他の仲間たちが居るニューヨークの事業所を経由してヒューストンへやって参りました。中型機でした。ヒューストンは大きな街です。とおるさんが降り立ったのは、市街北部にある「Bush Intercontinental」空港です。これが一番大きな国際空港で、そのほか市街の各方角に3

ヶ所のドメスティックな空港があります。ホテルに落ち着き、まずは駐在開始とお仕事の成功を祈って、独り祝杯を挙げるとおるさんでした。



とおるさんにとってはひさびさの北米生活です。以前はオクさんと一緒になってすぐの80年代最後から90年代に入って、約2年間のカリフォルニア暮らしでしたが、今回はちょっと勝手が違うかも。独り暮らしをどのように快適に、かつ健康に過ごすか。身体と気持ちの案配を上手にせねば。

以上、Part H1: 「事の始まり・ヒューストンに暮らす」でした。(2012年4月)

とおるさん家設営 in ヒューストン



まずまっ先に、棲み家を決めねば。異国にほうり出されたら、住所不定の身分から早く脱したい、という気持ちが本能的に働きます。2月の出張のときにいくつか心当たりを作っておきました。今は便利なものでネットで色々な情報が入りますが、20年前のカリフォルニアでは地元の新聞広告から物件を拾って、レンタカーで一件一件回りました。サンタバーバラという小さな街でそんなに物件も多くはなく、2~3件回って

速攻で決めてしまった覚えがあります。20年前と情報の集め方は異なりますが、結局現地に行って、周辺の様子、アパートの中身、交通の便、などの確認をする作業はおんなじです。上の写真が、とおるさんの住処と定めたアパートです。全米有数の大規模メディカルセンタに近いということ、周囲が広々しており、土日は静かな様子だったこと、部屋が東向きの3階で見晴らしが良いこと、仕事場に高速を使わず行けること、何より、ジョギングにお誘い向きの河川が近くを流れていること、比較的 low cost であること、などから、すぐ気に入ってしまいました。アパート探しに出かけたこの日は、前回出張の折に候補とした場所はむしろ後回しにし、このアパートを皮切りに順次回るつもりだったのですが、しょっぱなの一発目で当たりが出てしまった感じでした。何かの縁でしょう。

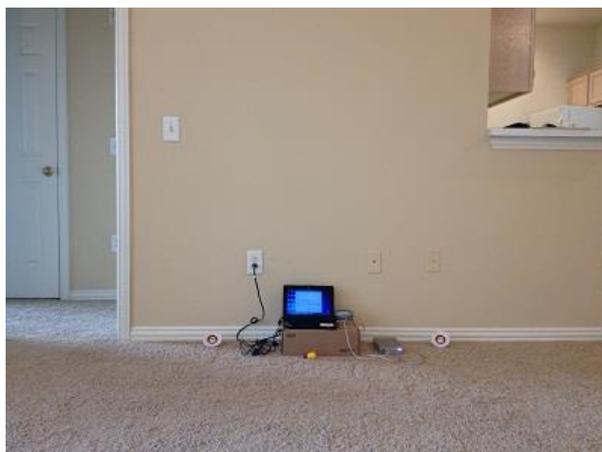
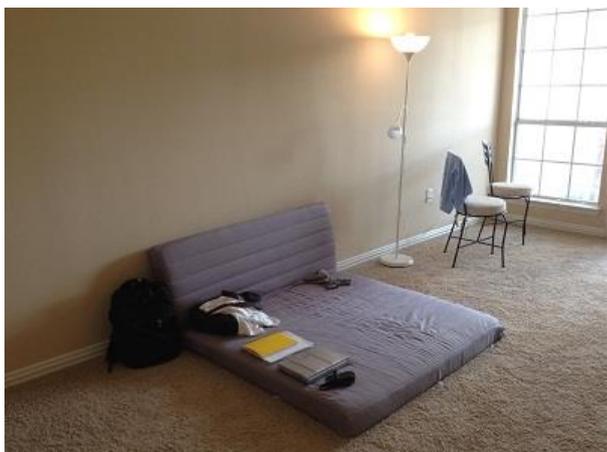
さて、正式にリース契約を結ぶことになりましたが、困ったことに。敷金の支払いは Money-order か Bank-check で行え、というのです。とおるさんは、20年前と同じように、AMEX の Travelers Check しか持ってこなかった。テキサス州だからなのか、時の移り変わりのせいなのか、わかりませんが、ともかくいわゆる T/C は契約金の支払い等には使えず、物品の購入にしか役に立たない、ということです。銀行は、普通住所が決まっていなくて口座が開けない。口座が開けないと、money-order や bank-check は作れない。ということでメビウスの輪にはまりました。人に話を聞いた結果、Wellsfargo 銀行は比較的親切だよ、という意見を貰いました。というわけで WF 銀行のオフィスに行き、あーだこーだと事情を説明したら、「お任せ下さい」と二つ返事で、契約前の仮住所と、パスポートの身分確認で、銀行口座の開設と、額面の money-order の作製を引き受けてくれました。まったく、シェーシェー・多謝！でございます。

もう1つラッキーだったのは、20年前に取得してあった SSN (ソーシャル・セキュリティ番号) が使えたことです。出発にあたって日本のとおるさん家を整理していたら、書類入れの奥底から、20年前のカリフォルニア運転免許と一緒に、SSN カードがひょっこり出てきた。アパートを仮決めした翌々日に SS オフィスに行き、再度番号照会してもらったところ、「20年後だって使えますよ」とのこと。SSN があると、銀行開設・運転免許申請・車の購入、などが比較的スムーズに運ぶようです。ちなみに、番号照会の過程で、20年前の申請時に、とおるさんの生年月日が「1989年」と過って登録されていたことが判明。3月の出張のとき、「私の以前の SSN を調べてくれ」と SS オフィスに依頼したとき、「該当する SSN が見つかりません」と言われた理由がわかりました。以上、どーでも良い話かもしれませんが、どの順番に物事をこなしてゆくか試行錯誤もあったし、20年前とは多かれ少なかれ事情が異なることもあって、結構あたふたとしました。海外駐在のハウツー本も出ているかと思うのですが、肝心なことはやっぱりその場で当って砕けてみないとわかりませぬ。

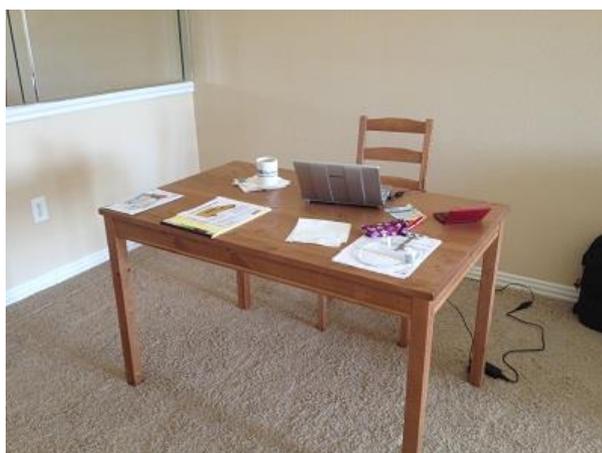
「Any ways....」アパートの契約を4月末日に結びました。さっさとホテルを引き払い、何も無い部屋に引っ越しました。



本当に何もないと困るので、組立家具で有名な「IKEA」を見つけてソファベッドとマットレス、テーブルと椅子を注文しました。自分で運べるマットレスだけをまず部屋に持ち込み、あとは後日有料で運送してもらうことに。というわけで、新居の第一夜は下記のような具合になりました。壁のところに USB オーディオ2号機と小型スピーカーも設置し、お出かけリスニングルームも完成。部屋が広いせいか、良い音ができる。気持ちも癒され、静かな夜で、ぐっすり良く眠れました。



数日のちに、ソファベッドの本体と、テーブル、椅子が届きました。IKEA の家具を組み立てるのは初めてですが、説明書は親切で分かりやすい。ちょっと華奢な作りに感じますが、決してチープには見えないところが良いですね。「いぢり屋本舗」としては、こうやって自分であれこれ組み立てる作業は立派なストレス解消になります。



最低限ですが、ゆっくりくつろげて、眠れて、食事をして、という環境が整い、豊かな気持ちになりました。旅行カバンにエイヤで詰め込んできた物品の中から、レトルトカレーを発見。前夜のチャイナテイクアウト付属の大量のご飯を電子レンジで暖め、このレトルトをぶっかけて食してみました。ビールは当地産の Saint Arnold というブランドで、何種類かのエールがあります。「……旨っっっ！」と、またしても独り祝杯を上げるとおるさんであります。

以上、Part H1.1: 「とおるさん家設営 in ヒューストン」でした。(2012年4月末)



ヒューストンを走る



アパートに落ち着いたある週末、思い立って外へランニングへ出かけてみることにしました。とおるさんは別に優秀なランナーではありません。疲れたら歩くし、座って休むし、日陰でじっくり汗を噴いて体力の回復も待つし……で、時間がかかることは気にせず、ともかく目的にまで行って帰ってくるというやり方が好きです。第一、ヒューストンはとんでもなく蒸し暑い。それでも、5月の今頃は、まだましです。気に入った川べりの木陰には、静かな風が通り、まことに清々しいです。日本に居る時はとおるさん家の近くのジムで、夕方ランニングマシンで練習していたのですが、こうして外へ出て長距離を行く際、とりあえずの耐久力は出来ていて良かったです。土手の脇には、雑草が色とりどりの花をつけていました。



次の週もお出かけしてみました。ヒューストン市の西の端から、アパートのあるメディカルセンターを経由し、とおるさんの通う大学のある市の東部へむかって河川が流れています。目的地まで正確な距離は不明ですが、アパートから大学方面までは、身体の参り具合から言って片道7~8キロの見当です。往復15キロくらいか、と思われます。数日前、ヒューストン市は豪雨と雷に見舞われました。川へ出てみると、土手は一面泥の海でした。もう少し走ると、高速道路の下をくぐる、コンクリート舗装の広い側道に出ますが、ここにたくさんの魚が打ち上げられて伸びています。河川が増水して側道まで水面が上がり、取り残されたものと思います。くちばしの長い、一見するとワニのようなグロテスクな魚が横たわっており、一瞬どきりしましたが、動く様子はありません。カモメやカラスは空を舞っているのですが、これらを餌として突く風でもなく、死んでしまった魚にはどうやら興味がないようです。実際の所、市内中心を流れていることもあって、河川周辺の見栄えは美しく整えて(今も補修の最中)いても、川の水自体はお世辞にも綺麗とは言えません。この日は、こんな有様で殺風景でした。



アパートを出発して直ぐの路面をトラムが走っています。メディカルセンターのちょっと南にあるリライアントパークから出発し、市の中心部(アストロズ球場)あたりまでを結ぶ交通機関です。意外と利用者は多く、朝晩は30分間隔くらいで結構頻繁に行き来しています。東京都内の電車等に比べれば全くノンビリしたのですが、川に出て土手脇を走り、全行程の中程で振り返ると、ヒューストンの街のビル群が向こうに見えます。



ジョギングコースのなかでもっともお気に入りの場所。木陰にベンチが設えてあり、まことに気持ちが良いです。ここで一息いれ、水を補給しつつ、眺めを楽しんでおります。最近このベンチをホームレスのお兄さんが住処にしてしまったのは残念です。これもまたアメリカ、ってことでしょうか。帰ってきて、ひと風呂あびて、昼寝をすると、あっという間に夕方ですが、アパートのポーチは格好のビアガーデンです。もっとも、7月以降は夕方5時頃は気温の最高潮で、ビールどころではありませぬ。

身体を動かすのは気持ちが良いものです。日常の仕事は神経を使うことも多いので、週末は頭の中を空っぽにするのがベストですね。以上、「ヒューストンを走る」の巻。(2012年5月～6月)

5月から6月へ



5月の半ば過ぎのある日、キャンパスに人が溢れかえりました。何ごとか、と思ったら卒業シーズン、とのこと。大学帽子とローブをまとった卒業生と、その家族がわんさか集まってきて周辺道路は大混雑です。外へ出て様子を見てみると、誇らし気な若者とその両親が晴れ晴れと祝福しあって、記念写真に余念がないのがわかります。大きな講堂で卒業式を行うようです。人数が多いので、午前午後それぞれ別なセッションや、複数の日程に分けてあるようです。夕方になり、人気がいなくなると、キャンパスの芝生にはリスが我が物顔に出没します。この卒業式以降、8月の終わりまで、基本学校は休みです。暑くて勉強にな

らんわ、ということかもしれません。夏のキャンパスの住人は、授業とは無関係の大学院生、研究者、教授連、そしてこのリス達で、急に静かになります。カフェテリアやショップもほとんど休業状態で、昼飯の調達には苦労します。とおるさんは家からサンドイッチを作って持ってくることにしました。安上がりだし、ちょうどいいや。お気に入りのコーヒーも朝自分でポットに入れてオフィスに持ってゆき、無くなればお湯を湧かしてインスタントコーヒーも作ってしまいます。

車を購入しました。5月の前半までは、レンタカーを使っていたのですが、我が社の決まりで赴任直後の一ヶ月間に限定されています。それ以降は自前で車を調達せねばなりません。レンタカーでたまたま使ったドッジのキャリバーという車種が何となく気に入りました。スポーツワゴン、というカテゴリーのようです。そんなに馬鹿でかくなく、でも後部座席を折り畳むとたっぷりモノが入る、という作りです。運転してみた感じは、日本のコンパクトカーよりもハンドルの効きが若干鈍いのですが、かえてその方が安定感があります。また、テキサスのドライバーは皆運転が荒く、こちらが慎重に運転していてもどんどん脇から割り込んでくるし、ヒヤヒヤいたしました。多少燃費は悪くとも、いざというとき馬力が入った方が良さそうです。レンタカー屋に問い合わせたところ、「中古車販売もやっていますよ」ということで2010年製の同車種を買うことにしました。面倒見が良く、整備もしっかりしているそうなので、即決してしまいました。すでに42000マイルを走行しており、日本の中古車に比べ、同じ年数や価格での中古度合いが激しいわけですが、これもまたアメリカですな、と割り切りました。車を購入したついでに、気が大きくなってしまってテレビも買ってしまった。といっても、流行りの大型画面には手が出ず、LED式32型に留まりました。「SANYO」製で、300ドル以下です。安いなあ、という印象ですが、1ドル=80円に換算するとおさらそう思えます。韓国・中国製の電化製品が目立ち、日本のメーカーは苦戦しているなあ、とも思いました。変な感心をしつつ、買って来たテレビをCATVにつないで、またしても独酌と相成ったのでございます。



さてと、オフィスでの仕事風景。インクジェットプリンタも購入。これまた安い。オートフィーダー機能のスキヤナー、ファクス、WiFi接続、全部入って80ドル弱。うっそー、と思いつつ買物カゴへ。ところが、同梱のインクは比較的短期間に切れ、容量の大きな換えインクが50ドル以上する。う〜む。



オフィスでの仕事が少し板につきはじめたところで、ニューヨーク州の仲間から声がかかりました。ちょうど本社の役員が視察に来ることになったので、全員集合、というわけです。事業所はオルバニーという街の近くにあり、そこへ2週間ほど出かけることになりました。実はオルバニーはニューヨーク州の州都で、歴史的にも由緒ある街でもあります。下記に掲載の市庁舎は意外な年数を経ており、独立戦争の時代はこのあたりを拠点にワシントンの軍隊がカナダ国境までの道のりを盛んに転戦往来した、歴史街道を物語る街でもあります。というわけでもないのですが、出張日程のなかば、5月下旬のメモリアルデーの休日を利用し、ワシントン将軍の足跡を慕ってオルバニーからモントリオールまで250マイルほどの距離を、同僚と一緒にドライブしてみました。



モントリオールの街なかで、印象に残ったアングルで3枚。モントリオールのノートルダム聖堂の前に立つ銅像(彼は誰だったんだろう?)、水辺の街角、町外れの古い工場跡(Molsonビール、らしい)。

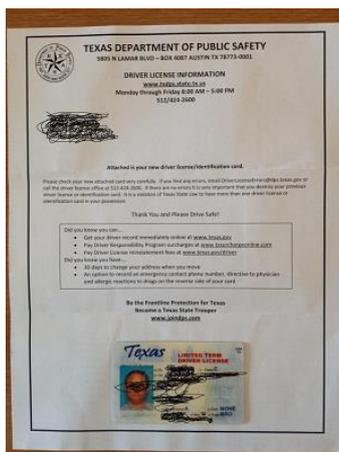


ついでに、モントリオールのオリンピック会場跡へ。下記写真左は屋内の水泳競技場です。同僚メンバーのなかでは、とおるさんが一番の年長者でした。しかし、モントリオールで五輪があった年はいつで、どんな選手が活躍したか、など、全く思い出せない。記念フロアで、東京五輪のポスターをみつけたとおるさんは独り興奮したのです。当時わたくしは4歳。たまたま駒沢競技場の近くに住んでいたため、五輪の興奮が納まったころ、両親に連れられて会場広場に散歩に行ったような記憶があります。そういえば、今年がロンドン五輪の開催年でした。



6月の頭に、ヒューストンに戻ってきました。ジョギングコースは、自宅から反対側(東側)を試してみました。同じ川沿いで、片道6~7キロの距離です。貨物路線に行き当たりました。橋の上をディーゼル機関車が走っています。出張から戻ってきたら、テキサス州運転免許の実技試験が待ちっていました。筆記試験は5月の1日に受かっていたのですが、実技も通過せねばなりません。一連の情報は、ヒューストン在住の親切な方のHPがあって、大変参考になりました。久々の縦列駐車でもありますので、前日の日曜日にDMVの会場に出かけて、練習してみました。すでに何人かのドライバーが来て練習していましたが、思いきり枠から外れたり、ポールをぐんにやり曲げてしまったりと、苦戦しています。どうやら小さな(枠に対して余裕のある)車に、大柄な運転手が無理矢理入っているため、思うように首が回っていない感じ。後方が良く見えないのでは?と思ってしまいました。待つこと1時間、ようやく当方の練習順番が回ってきました。5ないし6回の操作で様子は分かりましたのでおしまいとし、あとは試験コースらしき道筋を2まわりほどし

て帰宅。当日は、緊張せず通過し、めでたく合格しました。2週間ほど後に写真のような手紙とともに免許証が届き、これでめでたくとおるさんも「Texan」の仲間入りです。



めりはりというか、独り盛り上がりというか、またまた祝杯をあげることにいたしました。日本製電子ジャーは持ってきませんでしたので、普通の鍋を使い、ストーブトップで炊飯です。コツは、お米をしっかり研ぐこと、十分水を吸わせること。あとは水加減、火加減ですが、これもネットで検索してそんなに難しいものではないことがわかり嬉しくなりました。昔から良く言われる、「はじめちよろちよろ中パツパ、赤子泣いても蓋取るな」です。実際はひとり分2合の仕込みですと、「5分で沸騰、6分中火、7分弱火、10分蒸らし」です。炊いたご飯に、角切りの牛肉でのサイコロステーキ・バター炒めに醤油味、は最高の取り合わせでした。これに気を良くして、何とかカレーライスが作れないものかと材料を調達しました。SBのカレールウはヒューストンの大抵のスーパーで入手可能です。おいしい人参は見当たりませんが、たまねぎとじゃがいもは種類も多く良質です。人参が無くても、ズッキーニが意外と美味な代替品となることが後日判明しました。



なんだかんだで、5月から6月にかけて、時は流れたのでありました。以上、「5月から6月へ」の巻。

夏のヒューストン

夏のヒューストン……と題しましたが、8月から9月にかけて、オーディオ関係ではあまり進捗がありません。暇まかせに、温度センサは如何に、と思い、とおるさんのアパートの温度管理をしている心臓部を(興味本位で)開腹してしまいました。と、いってもカバーをちょこっと外しただけです。写真でご覧の通り、極めて原始的な仕組みです。コイルばね(ぜんまい)式温度センサの上に水銀リレーを固定しただけ。部屋の温度が上昇するとぜんまいが伸びて水銀リレーを右に傾ける→クーラーのスイッチが入る、という単純な動作原理ですが、おそらく設置されてから10年近く動作し続けているものと思われます。しかし、この夏、気温が高くなったのに動作しない、という場面が数回ありました。温度設定バーを左右に動かすと、水銀リレーが入ったり切れたりするわけですが、チューブの中でスパークが飛ぶ様子が見えます。接点に酸化膜でも張っているのでしょうか。とりあえずこのようにいじっていれば、動作は続けているようです。



ランニングを続けていますが、夏はきついです。この季節のヒューストンは、日差しがほぼ地面に対し垂直に、頭の上からかんかん照りに照りつけます。ランニングをしていると、驚くほど短い時間で息が上がるのがわかります。この数カ月で5年分も歳をとったか、と、錯覚しました。日照りの中ではできるだけ速やかに潜り抜け、木陰を見つけたら歩いて体力を回復、というコツを見つけました。水の補給も大事です。一体全体、ゴールドラッシュ時代のカウボーイたちはどのように対処していたのでしょうか。暑いさなか、川沿いのランニングロードは、5月以来工事中でしたが徐々に整備が進みました。全体の景観の中心になるつり橋は、なかなか美しいフォルムです。



もう一つ別な橋のたもとに、テキサスメディカルセンターの運営と発展に貢献した功労者を称える、下記のような記念碑があります。ご本人は健在の由。今の仕事仲間のご尊父であることをつい最近知りました。こうしてゆっくりランニングしていると、思いがけない事柄に行きあたるものです。



夏の食べ物、というわけではないのですが、そろそろカレーにも飽きた。スーパーのシーフードには残念ながら食欲をそそる材料はあまり置いていないけれど、見た目いけそうな味付きの切り身を試してみました。パスタとスピナッチサラダ、ドレッシングはオリーブオイル・ワインビネガー、塩、こしょう。休日の夕方、細々と手を下して時間をつぶすのは楽しいもんです。味は二の次ってことで。



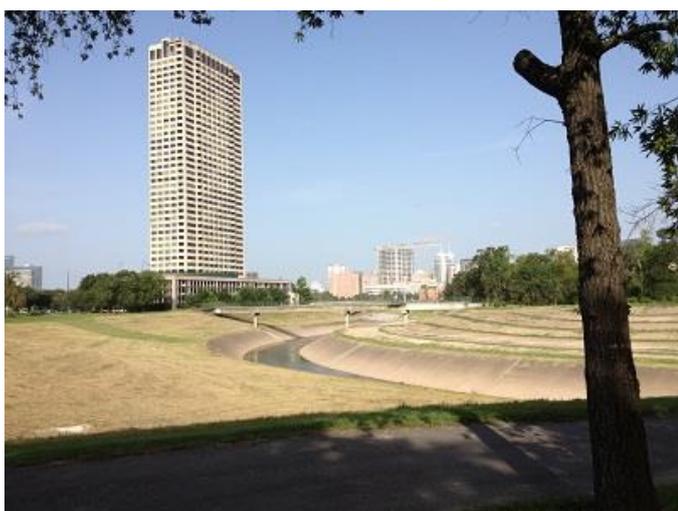
毎週走るなか、野うさぎの巣を見つけました。朝早くここに来ると、2羽のうさぎに出会います。驚いて藪の中に逃げ込むのですが、1羽だけはこちらの様子を伺い、すぐには隠れません。そっと近付いて写真に納めました。横目を大きく開いてこちらを見ているようです。耳はまっすぐ、足は踏ん張って、いつでも逃げられる体制です。脱兎のごとく、とは良く言ったものです。残念ながら、整備工事の一環で、これから間もなく藪ごと整地されてしまいました。うさぎ共はどこへ行ったやら。



ランニングロードに咲く、野花かな。普段、こんな機会でもないと、見向きもしないだろうな。



川沿いにある、お気に入りの休憩スポットから望む風景。背の高いビルはマンションか、オフィスか。蛇行する川のほとりからは、東西の市街が一望でき、気持ちが良いです。整備工事はまだまだ続き、芝生などを張りこむのはこの日照りが一段落したら、ということになりそうです。今は白っ茶けた土くれがむき出しになって、殺風景かつ強烈な照り返しです。



ランニングの終着点(東)にある、McGregor 公園の木陰。このベンチは風が良く通り、涼しく快適です。到着したら、持参した水や食べ物(バナナ・ブドウ)を補給します。



この地点で折り返し、再び川沿いの道へ。この近辺は元から芝生と木々が植え込まれ、数年前の洪水、その後の干ばつ、に遭っても被害をあまり受けず済んだようです。見通しが良く、走っていて気持ちの良い場所です。



ランニングの帰り、アパートまでの道のりに疲れてしまい、メディカルセンターの中をゆっくり歩いて戻ることになりました。中心部のビル街。様々なデザインビル、木々、芝生などなど。土日の午前中はほとんど人影がありません。メディカルセンターの中心には、トラムの停車駅があります。



川の定点観察も良いのですが、たまには足を延ばしてみよう、と思い、愛馬 Caliber 君に鞭を呉れて海岸までドライブしてみました。ヒューストンを南に下ると Galveston という海岸沿いの町があります。海水浴・リゾート目的の一帯ではありますが、田舎の域を出ません。その昔、米西戦争の折は、スペイン軍の侵入経路を断つための重要な軍事拠点だったらしい。砲台や砦の基礎工事の跡があります。今は、海岸から沖を望めば、燃料輸送の巨大なタンカーがゆっくり行き来する、何の変哲もないおだやかな港町になり果てています。



Galveston の海岸風景。とんでもなく広い砂浜です。引き潮だったのかもしれない。雨模様の週末に出てきたのですが、海岸について頃はカラッと晴れ上がり、観光客もあまり出ておらず、その分だけ余計に広さを感じました。



ヒューストンの街は、この Galveston 湾との間で物資をやり取りする貨物列車が数本、南北に縦断しています。そのうちの一本が、長大な列を作ってゆっくり運転している場面に出会いました。



ところで、とおるさんのオフィスが移動しました。近場ですが大学キャンパスの外に実験設備を置いて稼働させることに。キャンパスとは異なり、学生たちもリスも居らず、ちょっとさみしい場所ですが、その分落ち着いて仕事ができます。もともとオイルプラント設備を製造する会社の跡地と建屋を活用しています。高い建物が無いので、一面、テキサスの広大な空と雲が目の前に広がります。キャンパス内のオフィスには、別れを告げました。数カ月の短い期間ですが、お世話になりました。



ついでに、本当にどーでも良い話ですが、7月下旬になって、ようやくベッドを購入しました。本格的なものを買くと、ベッド本体で1000ドル弱、分厚いスプリング式マットレスを揃えればさらに1000ドル、という値段になるので、結局この3ヶ月間弱、200ドル程度のソファベッドで寝起きしていたのでした。思い切って、ねぐらをグレードアップすることに……といいつつ、永住するわけではなし、どうしよう。困ったときのIKEA頼みで、お参りしたら、あったあった。組立式のクイーンサイズのフレームに、形状記憶フォームのマットレスを組み合わせ、500ドル程度に収まりました。がんばって独りで輸送・組立しました。Caliber君に荷物を詰め込んだ様子です。パーツを運び込み、部屋の中でフレームを組立しているところ。とおるさんは元祖「いじり屋本舗」だったから良いものの、これらの作業にあまり親しみのない方だったら、途中で面倒くさくなると思います。



オフィスの引越し、ベッドの組み立て、などイベントが続きましたので、「ちよんがあキッチン」も多彩なものに。豆腐はなかなか行けます。中国食材スーパー(超級市場)を見回っていると結構楽しい。「包飯」を見つけました。極めつけはやっぱりカレー。(というか、やっぱりレパートリーが無いわい。)



さて、仕事の都合で大本営に状況報告のため、一時帰国することになりました。久しぶりの日本の我が家。家族と対面するのは嬉しいです。スカイプでの会話にも限界はあります。

と、いうわけで日本のとおるさん家周辺： 8月も末になり、暑さの盛りは峠を越え、陽光は眩いですが木々の緑に和らげられている感じがします。こうして比べてみると、テキサスで見る屋外の光はもっと容赦がない、という感じです。テキサスの人たちが大抵のことには驚かず動じない、というのはここら辺に理由があるのかもしれませんが。



とおるさん留守宅には下記のシステムが残してあります。EL34pp の「ど真空管アンプ」、EV-405 を仕込んだ小型スピーカー、TA1541 使用の第 2 世代 DAC、です。主力部隊がみんなヒューストンに出征してしまったので、居残り舞台はごちんまりしています。ついでにソフトも出張してしまったので、一時帰国にお供した USB-Audio 機がディスクジョッキーをつとめました。



2 週間ほど日本の我が家で過ごした後、ヒューストンに帰る道すがら、成田エクスプレスで江戸川を渡りました。少し寂しいと言うか何と言うか。



いつもベランダから見慣れていた光景ですが、今回は久しぶりにフジヤマを拝みました。ジン、ときますね。やっぱり故郷と家族は良いです。以上、「夏のヒューストン」という話題でした。(2012 年 9 月)

秋の空・旅の空

久しぶりにヒューストンに戻ってきました。9 月後半になり、日が西に傾くとき、夕焼けの色が濃くなりました。



早速いつものジョギングロードに出かけてみました。川にかかるパイプラインの上に整列中の、「鶉」のような鳥たち。気がつきませんでした。9月になって良く見かけるようになりました。あまり恰好の好くない海兵さんたちです。一方、いつものお気に入りベンチには先客のスズメが。



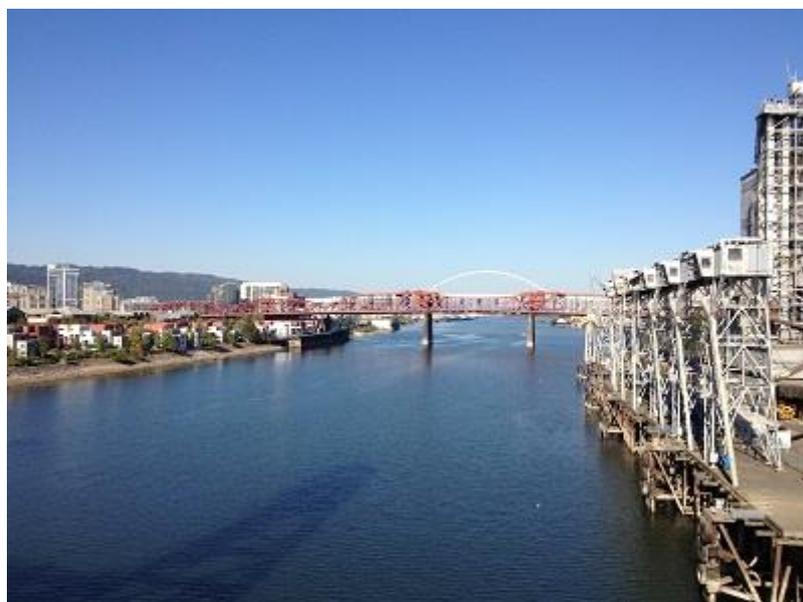
夕飯のレパートリー： パスタ+ベーコン白菜炒め、およびマーボー豆腐。いずれも「遠赤外クッカー」を試しに使ってみた。調理は確かに簡単。でも結局材料の下ごしらえ・味付け・などの準備作業の面倒さは変わらない。



そんなこんなで、2週間強落ち着いたところで、10月上旬には学会調査と技術展示活動のため、再びテキサスを出て、西海岸はオレゴン州、ポートランドに出張することになりました。週末にポートランド市内に到着。空き時間を利用して散策。一緒に出かけた上司の先輩と自転車を借りて一回りです。街中で見かけた見事なスポーツカー。ポートランドの皆さんはサイクリング用の自転車であったり、このようなスポーツカーであったり、メカものが好きなようです。



ポートランドの大河と、この川にかかる古~い鉄橋を写真に収めました。今は稼働していないようですが、一昔前は大きな軍艦や汽船を通していただけでしょう。橋梁がクレーンで上に持ち上がる仕組み(ハネ橋構造)になっています。



10月の半ばに、再びヒューストンに戻りました。本日の夕飯はマーボー豆腐第2弾。夕方にスーパーに買い物に出かけ、車に戻ったら、カラスの集団に占拠されていました。右が我が愛車キャリバー。隣が他人様のアベンジャー。ドッジ製の姉妹車です。こいつら、黒のドッジがお好きか？ギャーギャー鳴くうるさい輩ですが、愛きようはあります。いわゆる普通のカラスより一回り小さく、目の周りの白い模様がトレードマークです。

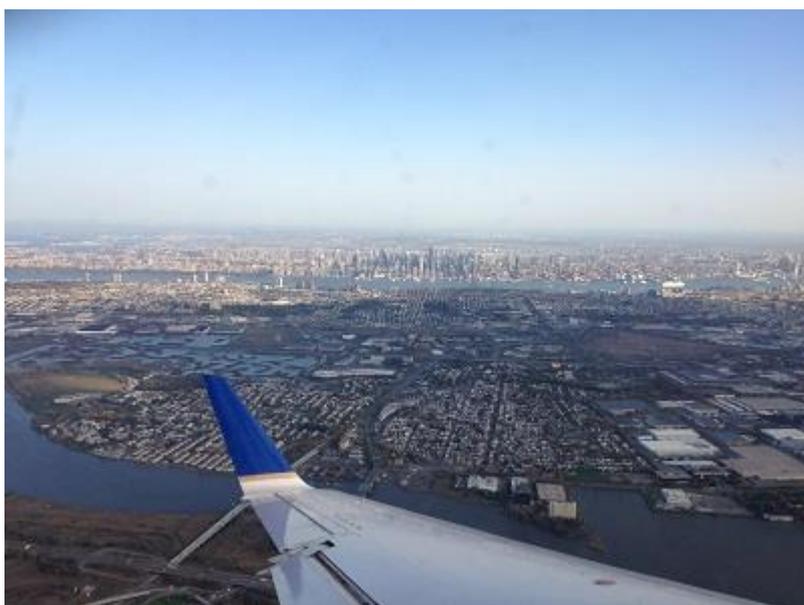


1週間ほどおいて、10月の下旬、また旅に。この秋は、ワークショップや学会が短期間に詰まっていたが、単身出向の身軽さを幸い、片端から出張することにしました。まずはニューヨーク州・オルバニーにある母艦に立ち寄りました。オルバニーの街はすっかり秋模様で、見事な紅葉と、抜けるような青空にお目にかかりました。





オルバニーを発って、ニューアーク空港へ。空から見るニュージャージーと、マンハッタンの様子です。この後一週間ほどたって、この一帯をハリケーン・サンディが襲い、まれにみる大災害となりました。沿岸地域では海水が電力ケーブルの陸揚げ端末を浸してしまったため、復旧が大幅に遅れた、と後日聞きました。



幸か不幸か、とおるさんはその被害を見ることなくニューアーク空港からそのままドイツのフランクフルトに直行。とある技術ワークショップへ出かけました。写真は、Kleinheubach という郊外にある、「Schloss Lowenstein(ライオン岩城)」という名のホテルに設営された会議場の様子。プライベートなワークショップのため、参加人数は限られており、アットホームな雰囲気の中、発表と討議が進行しました。



「ライオン岩城ホテル」の小窓から見た、建物の風景。



ワークショップのレセプションは、下記のダイニングルームで行われました。もともとが城館の造りに仕立ててあるためか、高い天井には豪華絢爛な色彩で紋様が描かれ、壁には大きな絵画がかかっています。ロビーでは美しいお嬢様方によるフルーツ三重奏が演ぜられる、という、仕事・出張といいつつも、滅多にない体験をいたしました。



ところで、フランクフルト空港から会議場に行く途中、山の中にある小さなお城(Mespelbrunn 城)に立ち寄りました。説明によると、「グリム童話」のネタになった怖い逸話があるとか。下の写真にある円筒形の塔が見えますね。城主の箱入り娘が、恋人との交信を断たれ、その最上部に閉じ込められていたそう。それでも密会を遂げるため、娘は自分の長い髪を垂らして恋人の青年を塔の上部に人知れず招き入れていたが、ある日それに気がついた城主が細工をし、見せかけの髪の毛を垂らしておいた。そうとは知らぬ青年は、その夜、一所懸命塔をよじ登ったが、半ばにして髪の毛のロープは切れ、青年はあえなくわが身と命を落としたとき。おしまい……という、ドイツのおとぎ話によくある残酷な結末。日本の小さな子どもたちには難しいお話ですね。



ワークショップ後、近郊の顧客を訪問し、技術打ち合わせとなりました。毎晩ホテルを換えて車で移動、というスケジュールですが、おかげで色々な街を見ることができました。下記は、最後に立ち寄った「レーゲンスブルグ」という城下町です。町の中心には石畳で覆われた広場があります。ホテルはその広場に面しています。入口は狭いのですが、中に入ると複雑な配置の階段・廊下を通じて、多くの部屋の間を行き来できるようになっています。間取り図が描けないような複雑な作りです。



10日ほど空けて、ヒューストンに戻ってきました。お気に入りのジョグロードへ。週末はここへ来るのが癖になってしまいました。決して素晴らしい景色ではないのですが、なんだか気が休まって落ち着くのです。



例の「鵜」のような仲間たちが、川の水辺で下記の写真のように整列しているのを見ました。まるで軍艦乗船前の水兵たちのようです。あまりにファンキーなので、おもわず写真に撮ってしまいました。



仕事場越しに見る、ヒューストンの秋空。雲が高くゆっくりと流れてゆきます。(2012年11月初め)

11月の旅へ

またまた、1週間ほどあけて、西海岸(カリフォルニア・ナパ)→オルバニー経由→再びドイツへ、という旅程で出張にでかけました。学会調査中心の日程です。まずはサンフランシスコに仲間と集合。車を借り、一路ナパへ。途中ゴールデンゲート橋を通り、ベイエリアを一望。相変わらずカリフォルニアの青い空です。会場は、Embassy Suite というチェーンホテルでした。屋内に大きなカフェテラスがあります。技術報告と打ち合わせを通じて、この分野の主だった研究者たちと面識を通じました。すっかり違う分野に飛び込んだので、まずは知り合いを増やすところから始めねば。



再び、東海岸を経由してフランクフルト空港へ。ここでトラブルに遭いました。ハリケーンの後遺症が残り、東海岸経由のフライトはかなり混乱していました。ワシントン DC を経由してフランクフルトへ、という予定だったのですが、オルバニー空港からのフライトがべた遅れに遅れて、DC に着いた時の、フランク行きルフトハンザ便が離陸した5分後でした。オルバニーを発つとき、係員からは「多分間に合わないからオルバニーに泊まった方がいいかもよ」とクギは刺されたのですが、とりあえず駒を前に進めておこうと思い、僥倖を期待しました。しかし、甘かったようです。DC 空港のカウンターには、夜中の0時ごろまで、代替え

フライトをアレンジして貰う旅客が長蛇の列を作りました。とおるさんも根気よく並んで、旅程の変更をお願いすることに。その晩の DC 空港近辺の宿泊費は航空会社持ちとなり、結果的にはラッキーでした。結局丸一晚遅れで、ワシントン DC→シカゴ→フランクフルトと乗り継ぎ、なんとかこの秋2度目のドイツ入りを果たしました。

今度の会議場は、フランクフルト空港から南へ約1時間、ハイデルベルグという町にありました。空港に到着したのは現地の朝5時半。予約を変更してあったシャトルバスに乗り込んで、会場となったホテルに朝8時ころ到着しました。そのまんま、会議に突入。そのまま3日間ほどの日程を消化しました。時差ぼけに関して言えば、米国内で冬時間の切り替えで1時間、ヒューストンからナパでまた1時間、東海岸経由で3時間、そこからヨーロッパへは7時間の時差、ということで、とおるさんの体内時計は十分狂っていましたので、「も～、ど～でもよい」状態でやり過ごしました。ともあれ、会議後、ハイデルベルグの街を散策する時間が取れ、リフレッシュさせていただきました。

街中のバー。夜遅くでかけたので、店の看板が良く映らなかった。おいしい豚肉のソテーとビールでひとり気炎をあげていたら、アメリカの女性から「この席は空いているか？」と声をかけられ、思いがけず会話が弾みました。彼女も出張のあと一休み、とのこと。ドイツの片田舎での、一期一会でありました。



週末のハイデルベルグ城下町。通りに面したリキュールショップに立ち寄り、思わず「グラッパ」を試飲・買っちゃいました。



城下から見上げた古城。急勾配の細道が城の本丸へ続きます。坂の上に見える塔。今は廃墟となり果てていますが、屈強の騎士たちが城を守り通したことだろうと往時が偲ばれます。



古城の上から望む、ハイデルベルグの街とネッカー川の流れ。この川は街の東側でライン川と合流しています。



城の中庭にたたずむ、文豪ゲーテの像。

ということで、にわかテキサスっ子もしばし西欧文明の真髄に心打たれつつ、再び新大陸の中西部・平たい荒野に戻ったのであります。



ヒューストンに戻った次の週、サンクスギビングのお休みに入りました。すっかり放浪癖のついたとおるさんは、ヒューストンに居る仲間を引っ張り出して、隣町のニューオリンズに出かけることにしました。隣町と言っても、車で6時間、350マイルの行程です。天気も良く、気持ちの良いドライブでした。到着した夜は、一泊の宿に荷物を置いて、有名なバーボンストリートへ。ご機嫌なサザンロックの音色に惹かれて、とあるバーにぶらっと入りました。リクエストも受けてくれる、というので、5ドル札と一緒に紙切れ一枚進呈。とおるさんの大好きなオールマンブラザーズバンドの名曲、「Rambling Man」を演奏して貰い、とても良い思い出になりました。



次の日、とても天気が良いので、半日、仲間と街中を散歩いたしました。朝のバーボンストリート。昨晚の喧噪が嘘みたいです。町はずれに公園が。魂のジャズメンを讃える、一連のモニュメント。ひとりトランペットを片手に、今は天国で陽気に音楽を奏で続けるサッチモの雄姿。



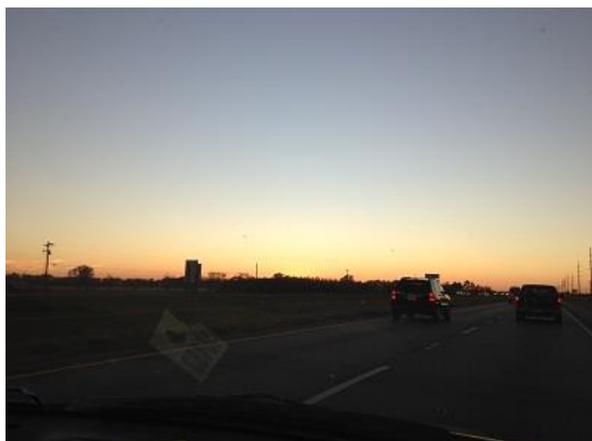
川沿いの中心部に、街一番の美しい教会があります。青い空に白い建物が良く映えます。アンドリュー・ジャクソン大統領の乗馬像。威勢のよい姿は、若き米国の高揚した気分を伝えてくれます。



一息入れようということで、二日酔いにはもってこいのガンボスープを一杯、のつもりが、迎え酒のビールもたのんでしまいました。このあと、ミシシッピ流域を望む水辺へ出てみました。遊覧船がのんびりと岸辺を離れてゆくところです。



一泊の旅はつつがなく終り、一路ヒューストンを目指して西に向かいました。日暮れは早く、地平線はあっというまに茜色に染まりました。



11月の旅はなおも続き、オルバニーの本隊にもう1週間立ち寄りました。帰路のオルバニー空港は雪。



ヒューストンに戻った12月の初旬は、すごく冷え込みました。つい昨日雪を見たオルバニーではあるまいし、まさかヒューストンで使うことは無いだろうと思った暖炉を、面白さ半分を使って見ました。容易に火は付かないし、大して暖まらないし、これは所詮雰囲気重視の物なのだな、と理解しました。でも、火を見つけているとなんだか落ち着いた気分になるのは不思議です。日曜日、いつものジョギングルートを変更してHerman Parkを見物してみました。暖かな日ざしの中、ここにもどなたかの乗馬像がありました。場所からして、サム・ヒューストン将軍かな、と勝手に想像しました。



多分これでもう打止め、ということでようやくヒューストンに腰を落ち着けました。我ながら、ちょっと日程を詰め込み過ぎたかな。どうやらお疲れ気味です。(2012年12月はじめの記録)

ヒューストンの冬は来たりて春も早や過ぎにけり

ヒューストンの様子をこまめに記録、と思いつつ、あっというまに時が過ぎてしまいました。これを記録しているのは4月も終盤、せっかく撮り溜めたiPhoneの画像も、放っておくと何のことやら分からなくなってしまうので、遅蒔きながら備忘録にまとめました。時ならぬクリスマスツリーから御紹介です。ヒューストンの街の西の端に、「Garellia」という大きなショッピングモールがあります。当地の人たちは、いざショッピ

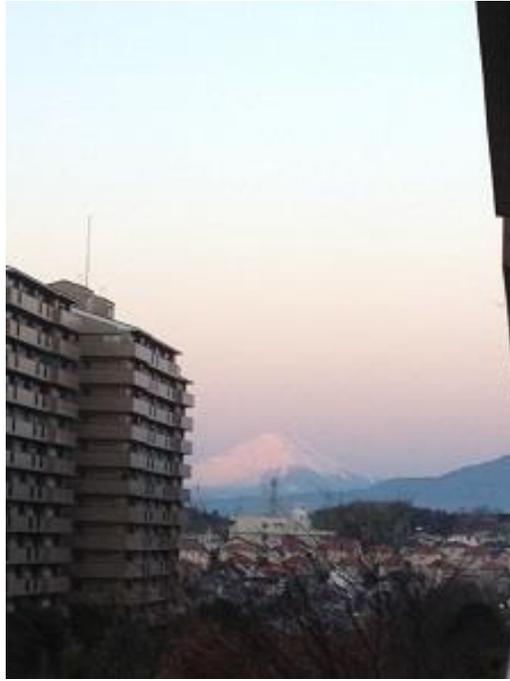
ング、という、このモールに嬉しそうに集まってきます。クリスマスセールに、とおるさんもいざ参加。お嬢が襟巻きが欲しい、と言うので物色しに参りました。まずは天井の高いモール内部で啞然、巨大なクリスマスツリーで目が真ん丸、でしたが、落ち着いて見直してみると、現代ニッポンの街中では意外と見なれたサイズなのかも。横浜のみなとみらいとか、品川／汐留あたりを知っている人には、大した驚きではないかもしれない。でも、嬉しそうにウインドウショッピングをしている人々を見ると、なんだか豊かな気持ちになります。



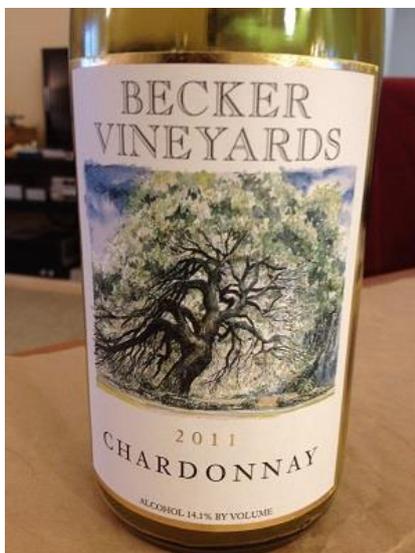
仕入れた襟巻き(日本ではマフラー、こちらではスカーフ、で通じますね)やら、チョコレート他、お土産をたずさえて、ほんの一瞬、日本に年末年始の帰国をすることにしました。クリスマスの25日にヒューストンを出立しました。下記写真は、ヒューストンから中継地のロサンゼルスに向かう途中、窓から見えた断層です。見えた場所を正確に把握していませんが、シエラネバダ山脈の南の端、かと思われます。空から見るアメリカ大陸はまことにダイナミックです。特に、冬は空気が透過し、天地の果てまでパノラマが広がります。



帰国便は、年始の3日午前零時に羽田を飛び立ち、夕刻のロサンゼルスに舞い降りる、と言う旅程でした。その日の内に米国内便を乗り継ぎ、午前2時頃テキサスの東端に着陸、というフライトプランです。チケットが安いこと、比較的シートが空いている、という利点がありました。マイルが貯まっていたせいか、行き帰りビジネス、というおまけがついて、ホクホクでしたが、結果的には、もう少し長く日本に居たかったな、という気持ちを、ちょびっと残しました。やっぱり、故郷と家族は離れ難く、良いものです。いつも見なれた富士山ですが、心に沁みました。



ヒューストンに戻ってすぐの週末。1月の5日か6日でしたか。こちら日本人で、まだ松の内も明けてねえのだ。酒くらいゆっくり飲みたいぜ、とばかり勢い込みましたが、美味しそうだな、買ってみようかな、と思えるのはやっぱりワイン。折角ですので、テキサスでしか手に入らない白ワインをためしてみました。(そこのスーパーで売ってたやつ。決してお高くありません。あしからず。)別に、人にお勧めするわけでも無く、自分的に満足できればよいわけですので、例によって酒精が多少回るころには、「矢でも鉄砲でも持ってこーい」という、いつもの、竹槍投げ放題の状態になりました。このような酔い方、誰も見ていないので、とても気持ちがいい。



3ヶ月振りの家族との再会も終え、ヒューストンの穏やかな1月初旬の気候にも恵まれ、さては順調な年始でござるかな、と思っていたら、トラブルに見舞われました。社の同僚がテキサスに出張して来た晩、連れ立ってレストランで楽しい夕食の後、ではまたあした、とレストランの裏手にある駐車場に戻ってきた時です。何やら人の群れと、赤青に明滅するパトカーのランプ。自分の車に歩み寄ったところ、警官に声をかけられました。「Sir, is this your car? If it is so, we are very sorry. Your car was broken in.」しばらく、何のことやら空気が読めぬまま、「What?」などと呟きつつ、キャリバー君をよくよく見つめたところ、無い。右側助手席の窓ガラスが、無い。おまけに、中に置いてあった、カバンも、無い。無い無い無い、何も無い！どうやら、我がキャリバー君のみならず、同じスポットで車上荒らしの被害にあったのは合計数台に及んだ由。……幸い、テキサス州の運転免許、いつも使うデビット(銀行)カード、iPhone、など、今は命の次の、そのまた次、くらいに大事なものはおおむね持っていたので事なきを得ましたが、その晩は、深夜に及ぶまで電話をかけまくり、口座と通帳、クレジットカード、その他、大童で事後処理しました。カバンの中にはメモ類やら、ラップトップPCやらも入っていたので、大変心細くなりましたが、情報を悪用されぬよう、信用会社に届け出もいたしました。同じレストランには何度も行ったことがあり、油断していました。何より、車の窓から見えるところに、カバンが置いてあったのが災いしました。盗っ人の照準に入ってしまったようです。何も入っていないよ～という様子にしておくのがコツだとか。冬の寒空、街のホームレスの気持ちも勢い荒々しくなるのかもしれませんが、つくづく用心すべし、と、あらためて気を引き締めました。

気を取り直して、週末のランニングを再開しました。昨年からずっと工事中だった新しい橋が開通し、川の兩岸の公園を連絡できるようになりました。シンプルですが、なかなか美しい造型です。真中で二つのアーチが交差し、「X」字型になっています。このアーチからケーブルで橋の本体を釣り上げています。ジョギングやサイクリングを楽しむ人たちが、橋の真中で立ち止まってはスナップショットを撮っていました。



橋を渡ると向こう岸には「Herman Park」と呼ばれる公園があります。敷地内には、ゴルフコース、庭園と池、動物園、自然博物館があります。週末は郊外から多くの家族連れが集い、賑やかになります。普段はこの公園内には寄らず、川沿いをまっすぐ東へジョギングするのですが、たまには、と思い公園の中を散策してみました。ヒューストンの2月は、さんさんと日光が溢れ、ぽかぽかと暖まってまことに気分がよろしい。



公園の中を歩いていたら、なんと「日本庭園」を見つけました。2月初めの陽気で、庭園の中は梅が咲き始めていました。小さな茶室、池、植木、などなど、ていねいにしつらえてあります。さすがに本場京都のような深みは期待すべくもありませんが、テキサスの空の下、意外な癒しのスポットです。庭園内のかたすみに、千葉市と姉妹都市になったことを記念してこの公園が造られた、という謂れが書いてありました。



この Herman Park の直ぐ東隣に、全米でも有数の格式を誇る、ライス大学の敷地が広がっています。地図上で見ると大した広さに見えないのですが、公園を出て、大学敷地内を横切ろうと思って歩いたら、とんでもない距離だったのでびっくりしました。敷地中の建物はすべて堂々とした造りで、さすがにお金をかけた私立大だ、と感心した次第。キャンパスの並木通りに、ここ数十年の足取りを語るポスターが掛かっているのですが、1990年と記されたポスターにふと目が行きました。写真の精度が悪く見づらいので申し訳ないのですが、経済サミットのためライス大学に集った、当時の各国首脳陣。真中にブッシュ大統領(父)、その右には、先日亡くなられたサッチャー前首相、さらにその右端に、時の海部総理大臣、と続きます。うーむ。20年前には気にも留めなかったわい。とおるさんも、ちょうどその時はカリフォルニアにいたはずなんだけどなあ。。。。



ジョギングと散歩から帰ってきて、お腹が空いたので、パスタを茹でることになりました。出来合いのソースを買う手もあったのですが、みんな似たような味なので少々飽きた。失敗覚悟で自作してみることにいたしました。ひき肉が旨そうなので、これにたまねぎのみじん切りを加えて炒める。塩／胡椒で適当に味付けをし、角切りトマト缶をぶち込みました。これが、とおるさんの的にはヒット作となりました。肉の旨味と、トマトの酸味がなかなかのハーモニーで、良い。赤ワイン進む。食べる。お腹パンパン。ジョギングの成果(ダイエット)吹っ飛ぶ。というわけで、元の木阿弥ですがな。トホホ。。。パスタもいけますが、ニョッキを茹でて絡めても、大変結構です。



2月の末日から、3月の第2週にかけて、とおるさんのオク様と、お嬢がヒューストンにやってきました。年末に会ったばかりですが、約2ヶ月間をおいてやっぱり待ち遠しいもんですね。北の国際空港に到着した二人を乗せて、アパートに到着しました。この日は、前日残りのチキンをアレンジして、チキンパスタとなりました。



二人とも、とおるさんが平日仕事で出かけている間は、アパートの近くを走るトラムを活用し、前述の Herman Park やら、ライス大とその近辺のショッピングセンターなどを見物して楽しんでいました。夕方は、家族3人で街中の巨大スーパーに出かけ、食材をしこたま買い込んで料理を楽しみました。野菜、くだものが豊富なうえ、チーズ、パン、肉類に珍しいものを見つけては、買物カゴに入れる、という、ごく単純な喜びですが、家族ともども満喫しました。

ヒューストン近郊には、これといった観光地はありませんが、車で足を伸ばすと広大な牧草地や、静かな湖が点在しています。まずは北に向かい、街のいわれにもなった、サム・ヒューストン将軍の名前を冠した森林公園(National Forest)にドライブしてみました。森林と言うより、荒野でしたが、公園東のはずれになってようやく木々が深くなってきました。「Camp Ground」と言う看板に牽かれて、何の気無しに入った場所

が、「Double Lake」という小さな湖です。下の写真がこれ。3月初旬の昼下がりで、ほんのわずかの観光客と行き会うだけ。湖面は静かに木々を映し、気持ちがすうっと落ち着く、とても印象的な風景でした。来て良かった、と家族ともども感動いたしました。



別な日に、牛を見に行こう、という話になりました。とおるさん家が揃ったこの2週間、たまたまですが「Houston Rodeo」という、一番大きな年中行事の最中でした。しかも、我がアパートの目と鼻の先にある、「Reliant Stadium」での開催です。コンサートや、出店、テングロンハットやブーツ等、テキサス的なファッショングッズが会場一杯に置いてあります。併設で、各牧畜業者が自慢の家畜を並べてできばえを競い合う、という趣きです。ブタ、牛、羊、馬、鶏、養蜂まで展示されていました。圧巻はやはり、荒れ馬や、暴れ牛を乗りこなすロデオショーです。審査基準が全く不明ですが、ようするに危険な演出を派手にやれば勝ち、ということらしい。ひとしきり、これを楽しんだ次の日、本当の牧場に行ってみよう、ということになりました。というわけが出かけたのが「Geroge Runch」という牧場です。ヒューストンの街から南西へ1時間ほど。Sugarlandという街のはずれにありました。到着した時間が遅かったので、牧場の中に入るのはあきらめ、入り口にある草場に出て来た牛達を眺めていたところ、いたいた。お目当ての「Texas Long Horn」が出てきました。集団の長のようです。真正面からのショットで、長い角の全てを画面に入れてみましたが、でかい。本人(本牛)は肩が凝らないんですかねえ。。。



2週間ほどはあっという間でしたが、家族と一緒に色々な場所を見に出かける機会が作れました。テキサスの州花で、「Bluebonnet」という可憐な花が咲く、という噂をオク様がネットで仕入れてくれました。では、最後にこれを見に行こう、ということで、今度は Houston の街から西北へ 2 時間、「Brenham」という小さな街に出かけることになりました。青い花が一面に咲く、という噂の光景になるまでには、後 2 週間ほど早かったようですが、Brenham の街の中心にある観光センタで聞くと、この道のこの角、という具合に厳選スポットを推薦してくれました。iPhone を頼りにそこへゆくと、確かにちらほらと咲き始めています。下記左側の写真、でしゃばっているキャリバー君の影に隠れて、ちょっと青い花が見えています。右側は、花一房のクローズアップ。



この Brenham のさらに北側に、Sommerville Lake という大きな湖があるのを地図上で見つけたので、もう少し足を伸ばしてみました。おそらく、夏休みには子供を連れて、多くの家族が湖畔のキャンプを楽しみにやって来るのだらうと思われます。3 月半ばでは全くのオフシーズンでしょうが、それでもばらばら、と数グループが来ていました。先日の Double Lake のような静けさはありませんが、広い湖面を渡る風が大変気持ちよく、もう少し待てば見事な夕日も見られそうでした。夏のキャンプファイヤーにはもってこいの場所ですね。



次の日の朝早く、家族を空港から日本へ送りました。団欒のあと、一人の部屋に戻るとさすがに寂しい気持ちになりましたが、早速オルバニーの工場への出張を入れていたので、さっさと気分を切り替えてしまいました……とは言え、3月のニューヨーク州は、寒っ！ぬ、ぬわんと、まだ雪が降っていました。テキサスとは大違いの気候です。現地の同僚達は、「こんなの当たり前さ！」と笑い飛ばしていました。1週間、北の国で過ごした後、再びテキサスへ。下記右側の写真は、空から見たヒューストンの街。



再び週末のジョギングロードへ。気が付くと、Brenhamまでわざわざ遠出して見に行った Bluebonnet が、川辺のそこら中一面に咲いているではありませんか。3月の下旬から、たった今、4月の下旬まで、花は衰えず増えてゆく様子です。カラフルな絨毯のようで、見ごたえがあります。



いつものジョギングルートの、青くて大きな、テキサスの空です。Bluebonnetの花とともに春から夏へ季節が変りはじめ、日も長くなりました。夕方7時頃もまだ外は明るく、アパートの窓から見える街の夕暮れまで、時間があります。



ヒューストンの冬と春は速めのバトンタッチを交わして共に駆けてゆき、5月に入ればテキサスの夏はもうすぐそこです。この1年、長かったような短かったような。(2013年4月末日)

ヒューストンの初夏・北の旅鳥

2013年4月末:とおるさん家のテキサスにおける駐在活动も、2回目の初夏を迎えました。日本は連休の入り、当地は淡々と日が高くなってまいりました。本格的に夏を迎えるまで、東の間、過ごしやすい気候となります。愛車キャリバー君の毎年の車検が切れてしまったので、Fierstone(メカニックのメジャーなチェーン店)に預け、その間ライス大の裏手にある横町を散歩してみました。下の写真左は、陽気そうなビアガーデン(日本風に言うと)です。ここは夜にならないと雰囲気が出ないので、別なお店でランチとしゃれ込みました。右の写真がそれ。メキシカンのお皿です。トルティーヤチップにハラペーニョとひき肉仕立てのスクランブルエッグ、豆、サルサソース。美味しい。きれいに平らげたらお腹一杯になりました。ところで、車検代。30ドルくらいで済むはずが、サスペンションのアライメント調整や何やを追加されて、結局100ドルを越えた。商売上手と言うか、当方に「不要！」と言い切る勇気が無いと言うか。。。くっそ。。。。



ほぼ1年たって、ジョギングシューズがぼろぼろになったので、さすがに新調しました。右側の写真は、降雨直後のジョグルートです。水気と、土手の細かな土砂で、ぬるっと滑りやすくなっています。怪我をしては洒落になりません。古いジョギングシューズは靴底がつんつるてんになっていて、大変危険な状態でありました。



いつもの川沿いのルートに出てみると、紫色や黄色の小さな花が咲き始めていました(左)。交代するかのよう、ブルーボネットの花はしぼんで、エンドウ豆のような実を結んでいます(右)。



川のほとりには何種類かの鳥がやってまいります。多分川底の魚目当てだと思うんですが。。。くちばしの長い奴(左)は間違い無くその手合いです。実際、小さな魚をキャッチするところを見ました。右のやつ、はてな？なんだこいつ？あまり釣上手ではなさそうです。とおるさんの好きなウイスキーのラベルに登場する鳥に似ているが、不明。



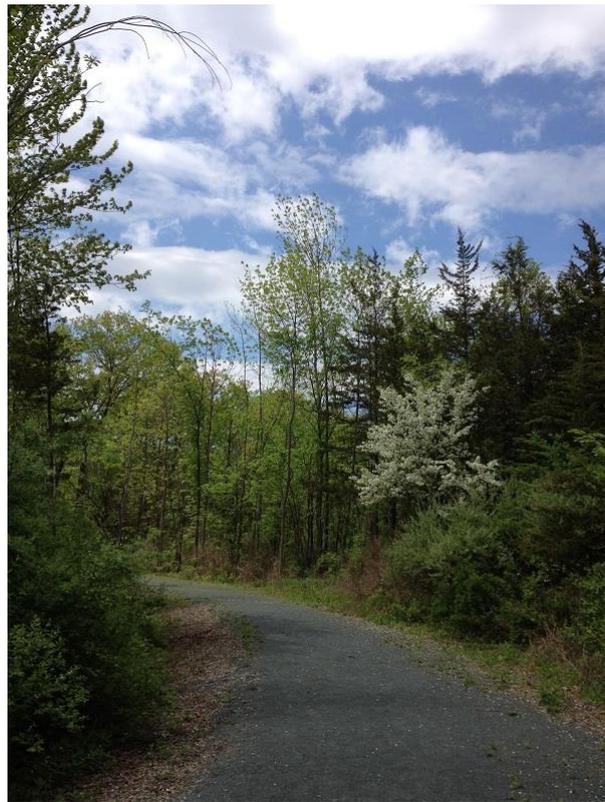
4月中旬に月次報告のため本隊に出張しましたが、5月に再びニューヨーク州に参りました。今回は、滞在1週間の前後、日曜日と土曜日を足して、少し周囲を見学することとしました。ニューヨーク州オルバニーには、西から東へ Mohawk(モホーク)という名の大河が流れています。日本人にはさほど知られた名ではありませんが、太古の北米大陸を覆った巨大氷河の名残りであるオンタリオ湖に水源を発し、街の西側を南北に縦断するハドソン川に合流します。ハドソン川はこの合流点で水量を増して南下し、マンハッタンの河口へ向かいます。

オルバニーの北側に、スケネクタディ(Schenectady)という名の街があります。この街もあまり日本人にはなじみがありませんが、その昔エジソンが数多くの発明を生み、大 GE の礎を築いた、由緒のある場所です。この街を車で出発し、モホーク川沿いをドライブしてみました。まずは、色々なクルーザーが停泊しているスポットに。。。物珍しがって写真を撮っていたら、注意されました。「プライベートエリア」なんだそう。な。「いいじゃん、減るもんじゃなし。」という文句はぐっと飲み込んで(というか、英訳が思い付かず)、「Sorry, the view is so great that I wanted to take some pictures.....」と、またしても下手な言い訳におよんだのであります。



モホーク川沿いをドライブするうち、もっともっとプライベートゾーン的な一帯に入りました。道沿いの家々は、入り口はあれど本丸が見えぬ、という、お屋敷揃いの一角です。そんな中、「Mohawk Landing」と書かれた公営らしき看板を見つけました。ちゃんと駐車場もある。レンタカーを止め、トレイルを分け入ってみま

した。川に出るまでの小道は、初夏の緑と陽光で、まばゆいばかりに輝いて見えました。辺りには人陰もなく、しんと静まり返って、気持ちがすうっと落ち着きました。



さらに車を進めてゆくと、湿地帯に出ました。川が蛇行する曲り角のところに、中洲のような土地ができあがり、広い葦の原と、沼地になっています。入り口には古い鉄橋が掛かり、湿原を散策できるようになっていました。場所の名前は「Vischer Ferry」と書かれてありました。湿原の広がり、大きな空に浮かぶ雲が遠景の果てに結び合い、なかなか雄大な眺めであります。



さて、さらに車を進めてゆくと、もっと川岸に近付きました。いままではちょうど岸壁の縁にある高台を抜けて、湿原に下り、さらに川べりに出て来たところでしょう。どうやら、魚釣りのできる場所らしい。目をやると、釣竿をかかえた親子が遠くに見えました。あらためてモホークの流れとくらべれば、ヒューストンの市内を流れる川は、小さな「用水路」に見えてしまいます。その豊かな水量と貫禄は、なかなか写真には収め切れませぬ。後ろを見ると、好い感じの「Tavern」がありました。お腹も空いてきたし、ひと休み。と言うことで、「Leuben」というサンドイッチを注文しました。コーンビーフとサワークラウトを挟んだシンプルな食

べ物です。シンプルと言うか、写真では泡の立った飲み物が出しゃばってしまい、「地味」に写ってますが、なかなか美味。全部食べてしまった。またしてもお腹一杯に。。。



朝10時頃ホテルを出発し、のんびり川沿いを走っていたら夕方になりましたので、この日の旅はここで概ね切り上げ、街へ戻ることにしました。次の週末、今度はボスに案内してもらい、ハドソン川の方面へ向かいました。圧巻は、「Mohawk Meets Hudson」のポイントでした。オンタリオ湖を出て、西から東へ旅して来たモホーク川。一方、モントリオールへ抜ける谷間に点在する湖水地を発して南へ下るハドソン川。この地は、2つの大河が合流する交差点です。あらためて写真に写った地形を見てみると、かつて重い氷河を支えた岩盤が、この地点で切れて段差を作り、豊かな水量が滝になって流れ落ちている様子がわかります。この段差と水力を利用して、全米でもかなり古い部類に入る水力発電所が作られました。写真右は、その発電所の全景です。右側を迂回させた発電用水路を建物に導き、その内部にあるタービンを回します。エジソンの発明からまもなく、北米東海岸のエンジニアたちは創意工夫を凝らして電力を作り、街の灯をともし、人力馬力に頼る古い工場を一新して、高品質で安価な工業製品を世に送り出したのでした。とおるさんは電気屋としては通信の分野にむしろ親しみがありましたが、こうして電力と電気の生まれたその場に来てみて、いままでとは別な、なにやら深い因縁のようなものを感じてしまいました。



北の本隊での滞在を終え、ヒューストンに舞い戻ってきました。市の上空、着陸体制に入る直前に写真一枚。いつもジョギングの途中で休むベンチがある、川の蛇行点のちょうど真上でした。なるほど、上から見るとこうなっているんだ。。。。



いつものジョギングルートにやっ来てまいりました。暑さが増し、ちょっと辛くなってきました。川べりの木々の様子も少し変わってきています。左下の写真は、大きな白い花をつけた立ち木です。木の名前が分からん。微かに良い香りがします。右下の写真、何だか分かりますか？実は、ブルーボネットの種です。エンドウ豆のようなサヤが弾け、地面にぱらぱらと落ちていますが、パッと見、小砂利のように見えます。まだ弾けていないサヤをあけ、川沿いのいくつかの株から別々に収穫しました。同じ株からは同じ色の種がとれます。株が変わると、種の色も様々に違います。来年、アパートのベランダで栽培してみようかと思っています。



フルコースのジョギングをする元気がなく、端折る場合はハーマンパークの向い側のスポットに車を止め、そこから例の橋をわたってハーマンパークをゆっくり一周歩いて回ります。小一時間、あまり疲れずにちょうど良い加減の運動になります。公園内のゴルフコース越しに見える、ヒューストンの市街地です。そういえば、しばらくゴルフクラブを握っていません。たまには打ちっぱなしにでも。。



ところで、最近はカレーやマーボー豆腐の自作に少し飽き、レパートリーに困っておりました。下記は、思い付きでいい加減に拵えたものの数々。その1;チキン+アスパラ・ケッパーソース仕立てにペペロンチーノ。このあいだオク様とお嬢が買ってきてくれた料理本をネタにしました。その2;スーパーで買った小さなソーセージ+サラダ。その3;グリーンピースの缶詰めを炒めて、出来合いのローストチキンに添えちゃったもの。えーい、気分が大事。ワインとビールさえあれば枯れ木もにぎわいの食卓じゃ。



5月の終わりから、6月にかけて、ヒューストンは時折り車軸を流すような雨が降ります。街路は川のようになり、ごろごろピカピカ、盛大です。これを書いている日曜日の朝、晴天でしたがiPhoneで見る予報は雨。はてどうしたものか、とまさに関心していたら、やってきました。大粒の雨。音付きのビデオにしないと、良く分かりませんね。あきらめてというか、良い口実にして一日中家にいることにしました。外で愛車キャリバー君は雨曝しにしましたが、最近お風呂に入れていないのでちょうどよいでしょう。とおるさんは、のんびりコーヒー豆でも挽いて、今日はくつろぐことにしよう。最近出来上がった真空管FMラジオも、機嫌良さそうに唄っているし。



独りの時間の使い方、最初は難しいかと思いましたが、旅、景色、ジョギング等の運動、料理、電子工作などなど。意外と忙しい。週末の日はあっという間に暮れてしまいます。次は読書、と思っていますが、日本からはあまり持ってこなかった。しまったなあ。こちらの本もいくつか買っては見ましたが、寝床で広げても5分も経ないうちに前後不覚の眠りに引っ張り込んでくれます。強力な睡眠薬そのものですか。健康な証拠と見て良いものでしょうか。(2013年6月上旬)

アーカイブの終わり (20161029)